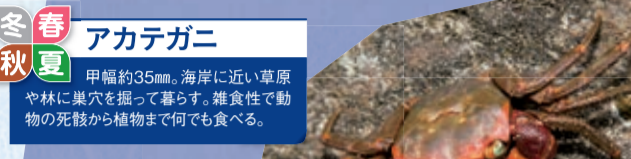






**冬 春** オオシロピンノ  
**秋 夏** 甲幅約5〜15mm。生きた二枚貝(主にマガキやアサリ、ハマグリ)の中で居候生活をする。メスはオスより倍ぐら大きく、貝の中で一生を終える。



**冬 春** アカテガニ  
**秋 夏** 甲幅約35mm。海岸に近い草原や林に巣穴を掘って暮らす。雑食性で動物の死骸から植物まで何でも食べる。



**冬 春** アシハラガニ  
**秋 夏** 甲幅約30mm。財田川の河口のアン原になくいる。主に腐食したコシの葉などを食べ、時に他種のカニを襲って食べる。



**冬 春** キンセンガニ  
**秋 夏** 甲幅約40mm。水のきれいな砂浜の潮間帯の砂の中に隠れて生息している。雑食性で、海藻、動物の死骸、小動物などを食べる。

## 有明浜の甲殻類

有明浜には砂質の環境を好む種が多く、大半の種は砂の中や砂上の小石の下に生息しているが、中には、貝類の中に隠れて生息するカニやエビもいる。財田川河口には栄養度の高い環境を好む種が生息する。



**冬 春** カクレエビ  
**秋 夏** 体長約30mm。生きた二枚貝(タイラキ)の中で居候生活をする。メスとオスは同じくらい大ききだが、ハサミはオスの方が(特に右)が大きく発達している。

## 有明浜の貝類

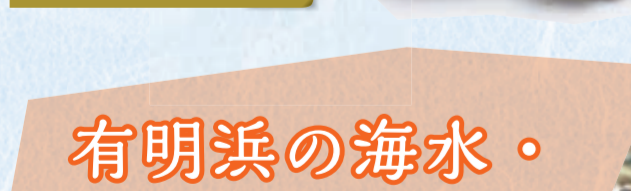
有明浜にはきれい(貧栄養)な砂質の環境を好む海産貝類が多く、大半の種は砂の中や岩場の表面などに生息している。財田川河口にはカワザンショウガイ類などの汽水性貝類が生息している。有明浜の背後にある琴弾山や興昌寺山の里山には、コウベマイマイなど数種の陸産貝類が生息している。



**冬 春** タイラギ  
**秋 夏** 殻長約200mm。有明浜沖の砂泥質の干潟に生息する大型の二枚貝。体のはんどを海底に潜らせて隠し、口のような平たい部分(殻蓋)だけを砂から出して、植物プランクトンを吸いこんで食べる。



**冬 春** ツメタガイ  
**秋 夏** 殻高約50mm。砂質の干潟に生息する巻貝。潮間帯の砂の中にもぐって生活し、アサリなどの他の貝をつかまえて、歯舌で殻に穴をあけ、消化液で溶かして中身を食べる。



**冬 春** アカニシ  
**秋 夏** 殻長約100mm。砂泥質の干潟に生息する巻貝。潮間帯の干潟から遠海域に生息し、3月頃に繁殖。産卵のために潮間帯に集まってくる。ツメタガイと同じように、他の貝(主に二枚貝)をおそって食べる。



**冬 春** ダイナギンボ(稚魚)  
**秋 夏** 体長約50mm。成魚は約250mmになる。海岸の岩壁域に生息し、稚魚は有明浜の北部の江南草山の岩場で見られる。



**冬 春** ヒモハゼ  
**秋 夏** 体長約50mm。財田川では普通に見られる汽水魚。アナジャコ類の巣穴を、普段の生活場所や産卵場所として利用する。



**冬 春** アベハゼ  
**秋 夏** 体長40〜50mm。河口に好んで生息する汽水魚。財田川では、河口上流部の障害物が多い場所で見られる。



イソビヨドリ



キンセンガニ



スナガニ



ハマヒルガオ



ネコノシタ



コウボウムギ



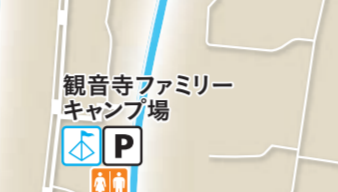
コメツキガニ



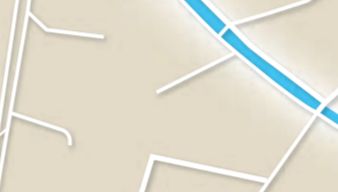
ハマニガナ



ハマゴウ



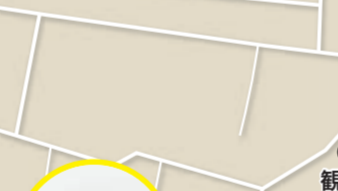
シロスジコガネ



ヤマトダグラバッタ



オオハサミムシ



アカンテ



アカンテ



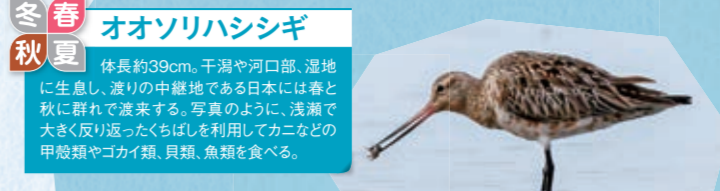
アカンテ



アカンテ

## 有明浜の鳥類

干潟は、有機物が多く、酸素の供給量も多いため、生物の宝庫となっている。その為、甲殻類やゴカイなどを食べるシギ類やチドリ類などにとっては、重要な餌場となっている。



**冬 春** オオソリハシギ  
**秋 夏** 体長約38cm。干潟や河口部、湿地に生息し、渡りの中継地である日本には春と秋に群れて渡来する。写真のように、浅瀬で大きく反り返ったくちばしを利用してカニなどの甲殻類やゴカイ類、貝類、魚類を食べる。



**冬 春** イソシギ  
**秋 夏** 体長約20cm。主に河川や湖沼の周辺に生息し、干潟や岩海岸でも見られる。主に昆虫を食べるが、干潟では写真のように、ゴカイ類や甲殻類を食べる。



**冬 春** ムナグロ  
**秋 夏** 体長24cm。水田や草原、干潟や河原、河口などに生息する。主に昆虫類や甲殻類などを食べ、草原や田んぼでは植物の種子をついばむこともある。



**冬 春** ハマエンドウ  
**秋 夏** 草丈15〜50cmの海岸植物。多年草で、有明浜では局所的に自生する。



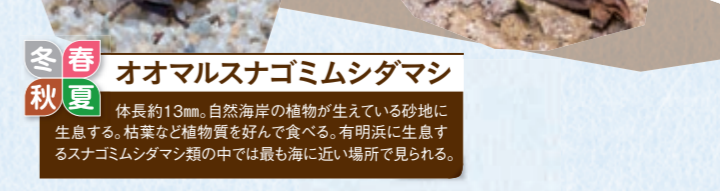
**冬 春** ハマヒルガオ  
**秋 夏** 草丈10〜20cm。つる性で茎は長く這う海岸植物。多年草で、有明浜では波打ち際から2〜3mの広い範囲で生育している。写真のように、花にはセイヨウミツバチが吸蜜に訪れる。



**冬 春** クロマツ  
**秋 夏** 樹高30mに達する、常緑針葉樹。ハルゼミやカミキリムシ類、タマシ類、コメツキ類、海浜性のシロスジコガネなど、この樹木に依存する昆虫は多い。



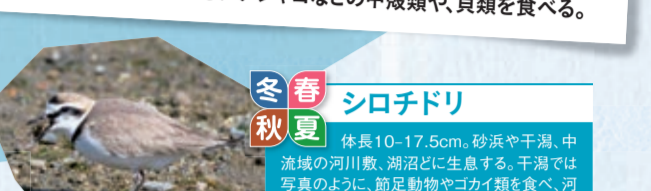
**冬 春** ヤマトダグラバッタ  
**秋 夏** 体長27〜38mm。海岸と内陸部が防波堤などでさえぎられていない自然の砂浜に生息する。ハマゴウ、ハマヒルガオ、ハマボウフウなどの海岸植物やそれらの種子、小昆虫の死骸や糞を食べる。



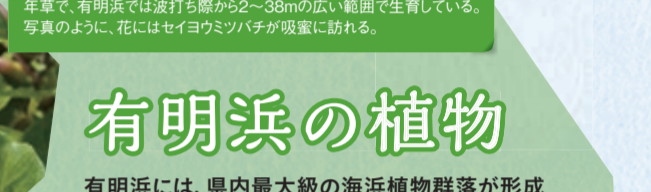
**冬 春** オオモンツチバチ  
**秋 夏** 体長約20mm。巣を作らず、土にもクワガタムシの幼虫に針を刺し麻痺させてから卵を産みつける。花の蜜を吸う姿がよく見られる。



**冬 春** チュウシャクシギ  
**秋 夏** 体長約42cm。干潟や河口部、湿地に生息し、渡りの中継地である日本には春と秋に小さな群れで渡来する。写真のように、長いくちばしを利用して、砂地の奥に隠れているアナジャコなどの甲殻類や、貝類を食べる。



**冬 春** シロチドリ  
**秋 夏** 体長10〜17.5cm。砂浜や干潟、中流域の河川、湖沼に生息する。干潟では写真のように、跼足動物やゴカイ類を食べ、河川や湖沼では水生昆虫をついばむ。



**冬 春** ハマナデシコ  
**秋 夏** 草丈20〜50cmの海岸植物。多年草で、本葉は海岸の崖やその周辺に自生するが、何故か有明浜の砂浜で生育している。海浜性のシマフクロハナバチが吸蜜に訪れる。



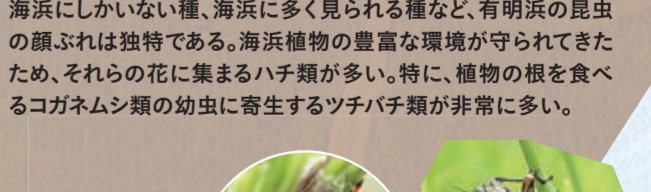
**冬 春** ハマボウフウ  
**秋 夏** 草丈10〜20cmの海岸植物。多年草で、有明浜では波打ち際から2〜3mの範囲で生育している。写真のように、実は色を変えながら熟す。



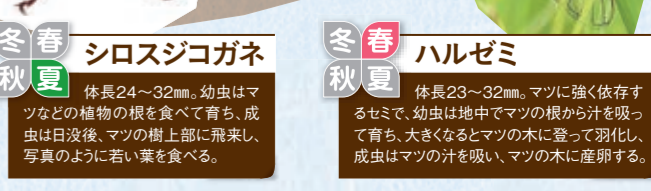
**冬 春** ネコノシタ  
**秋 夏** 草丈10〜30cm。つる性で茎は長く這う海岸植物。多年草で、有明浜では波打ち際から2〜3mの範囲で生育している。葉の表面が猫の舌のようにサラサラしている。



**冬 春** スナビキソウ  
**秋 夏** 草丈25〜30cmの海岸植物。多年草で、有明浜では波打ち際に近い、12〜26mの範囲に生息。



**冬 春** フタイロカミキリモドキ  
**秋 夏** 体長6.5〜9mm。写真のようにスナビキソウの花弁・花蜜を食べる。



**冬 春** シロスジコガネ  
**秋 夏** 体長24〜32mm。幼虫はマツなどの植物の根を食べる。成虫は日没後、マツの樹上部に飛来し、写真のように若い葉を食べる。



**冬 春** ハルゼミ  
**秋 夏** 体長23〜32mm。マツに長く依存するセミで、幼虫は地中でマツの根から汁を吸って育ち、成虫になるとマツの樹上部に登って羽化し、成虫はマツの汁を吸い、マツの木に産卵する。

## 有明浜の海水・汽水域の魚類

有明浜に生息する種、財田川河口に生息する種(汽水魚)、両方に生息する種の3タイプに大きく分けられる。特に財田川の河口干潟は餌が多く、天敵の大型魚も少ないため、様々な魚の幼魚・若魚の重要な次世代育成環境となっている。



**冬 春** ヒモハゼ  
**秋 夏** 体長約50mm。財田川では普通に見られる汽水魚。アナジャコ類の巣穴を、普段の生活場所や産卵場所として利用する。



**冬 春** ヒモハゼ  
**秋 夏** 体長約50mm。財田川では普通に見られる汽水魚。アナジャコ類の巣穴を、普段の生活場所や産卵場所として利用する。



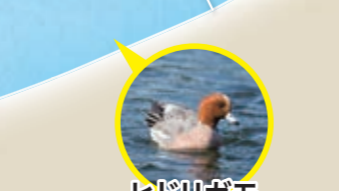
**冬 春** アベハゼ  
**秋 夏** 体長40〜50mm。河口に好んで生息する汽水魚。財田川では、河口上流部の障害物が多い場所で見られる。



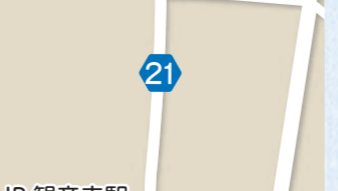
ユリカモメ



ヒモハゼ



スナヒトデ



アナジャコ



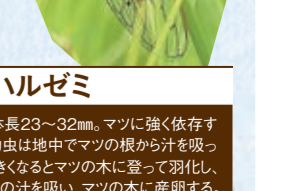
オオマルスナゴミシダマシ



オオヨツボシゴミムシ



シロスジコガネ



ハルゼミ